

道連ニュース

2024年9月号 No.213

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2024年度 第2回理事会報告

8月22日(木)ポールスター札幌にて、倉島理事(あさひかわ福祉生協)を議長に選出し、開催致しました。冒頭、中島会長の挨拶ののち、以下の事項について、提案があり、承認されました。

【議決事項】

1. 役員報酬決定の件
2. 出向契約書締結の件
3. 代行順位の件
4. 10月26日(土)北海道ユニセフ協会30周年記念事業協賛の件
5. 大学生協事業連合会員生協の研修企画の費用支援の件
6. 被爆80周年北海道高校生被爆ピアノコンサート実行委員会協賛申し入れの件
7. 道連事務所館内移転の件

【報告・審議事項】

1. 省令改正を受けたLPガス問題の取り組み
2. 灯油価格をめぐる情勢と対応の件

3. 70周年記念事業計画の件(第1次案以降の検討について)
4. こども食堂北海道ネットワーク活動報告
5. ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト活動報告
6. 協同組合ネット活動報告

【報告事項】

1. 一般活動報告
2. 第68回総会終了報告
3. 第1回理事会報告
4. 決算報告(4月～7月)
5. 北海道からの通知及び友好団体・協賛・後援の件
6. 日生協北海道・東北地連報告
7. 会員報告—コープさっぽろ・札幌高齢者生協・大学生協事業連合

また、理事会開催前に70周年事業検討会を開催し、第1次案からの検討を踏まえ、事業の内容について、祝賀レセプション及び記念誌発行の見直しと新たな連携事業の提案並びに、「環境・農業・食料」をテーマとした企画の検討(案)について議論を行いました。



北海道労働者共済生活協同組合 通常総代会が終了しました

～2023年度事業報告および2024年度
事業計画が確認されました～



2024年7月30日(火)、「第71回 北海道労働者共済生活協同組合 通常総代会」および「第7回 こくみん共済coop <全労済>北海道推進本部 組合員代表者会議」をホテルポールスター札幌にて開催いたしました。今総代会(代表者会議)には、総代(組合員代表者)130名中、書面議決等を含む120名が出席し、総代会では、「2023年度事業報告および決算報告承認の件」などの10議案、代表者会議では、「2023年度北海道推進本部推進活動報告について」などの3つの付議事項について、全体で承認されました。

2022年度より展開している「中期経営政策2025変革と創造」の前半2年間においては、マイページやアプリの機能拡充や「こくみんLifeサポート」の展開、お役立ちDX等の進展や協力団体・パートナー団体との共創をはじめとして、各種の基盤を整備してきました。中経2025の折り返しの年となるこの2024年度は、中間検証の結果と現下の環境を踏まえながら、さらに積極的に重

要施策を推し進めてまいります。

また、本年1月1日に発生した能登半島地震により被災された方々に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。こくみん共済coopでは、苦しい生活にある組合員の方々が一日も早く以前の日常を取り戻せるように、発災直後から直ちに現場調査活動を展開し、迅速な支払いを行ってまいりました。今後も役職員一同が心をつとにしながら、各種活動を通じて引き続き被災地の支援を続けてまいります。

自然災害の頻発化・激甚化や、混迷を極める国内外の諸情勢、好転がみられない人口減少と少子高齢化等、深刻な課題が山積していますが、こくみん共済coopは、組合員の暮らしを支える共済事業や防災・減災の啓発活動等を通じて、安心できる暮らしの実現や社会課題の解決に向けて努力を重ねてまいります。組合員・関係諸団体の皆さまの引き続きのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

2024 北海道大学講座フレッシュマンセミナー開講

年度

～協同組合ネット北海道主催「協同組合を学ぶ」～

日 時：2024年8月6日(火)～9日(金)（1泊4日） ※8/8（午後）～8/9（午前）は講義のみ

フィールドワーク&講義日程

- 1日目(8/6)～・J A当麻・当麻町森林組合・トドックステーション旭川西センター
- 2日目(8/7)～・北るもい漁協・ホクレンパールライス砂川工場・コープさっぽろ「移動販売車」
- 3日目(8/8)～北海道大学農学部 S31教室 (13:00～17:00)
- 4日目(8/9)～北海道大学農学部 S31教室 (08:45～13:00)
- 宿泊先：ネイパル砂川
- 目的：北海道の農山漁村・地域における社会経済的課題について、協同組合がその解決にどのような役割を果たしているのか、座学及びフィールドで学ぶことを通じ、自ら課題を発見し、その解決策を考える力を身につけることを目的とする。



北海道大学1年生30名と共に見る、協同組合の生き活きとした姿！

協同組合ネット北海道は、北海道大学の未来を担う1年生を対象に、「フレッシュマンセミナー」を今年も開催しました。道内のさまざまな協同組合を訪問し、学生たちに協同組合の理念と地域社会への貢献を直接体験してもらおう機会を提供しました。

J A当麻の選果場で新鮮な農産物の選別作業を体験し、当麻町森林組合で木材加工の工程を見学、ホクレン

パールライス砂川工場で米の精米過程を学びました。学生たちは、それぞれの現場で働く職員の方々から熱心に話を聞き、活発に質問を交わしました。また、北るもい漁協では、 -25°C の製氷施設内を体感や競りの一端を垣間見、コープさっぽろの移動販売車では、地域住民への食料供給の役割を学びました。

3～4日目は北海道大学に戻り、協同組合ネット北海道構成14団体による座学を通じて、協同組合の多様な活動について深く理解を深め、学生たちは協同組合が単なる経済組織ではなく、地域社会の活性化に不可欠な存在であることを実感してくれたのではないかと思います。

フレッシュマンセミナーに参加した学生の声（一部抜粋）

●こんなにいくつもの団体のお話を聞いたり視察できることは本当はないと思うので、とても貴重な体験だった。講義前は協同組合がどういうものなのかさえよくわかっていなかったが、学ぶことがとても多く、協同の精神は自分にとってすごく心地よく感じた。自分の将来を考える上でも、協同組合で働くという選択肢も考えていきたいと思った。

●直接視察できることはとても刺激的でよかった。今思い返してみても、座って話を聞いている時間よりも実際に近くで実際のものを見た記憶の方が鮮明に残っているので、校外で学習することの良さに気がついた。

●トドックステーションでは、特に協同組合の色を強く感じた。地域に店舗がなく買い物に不便な組合員に対して商品を届ける事業で、どんどん規模が拡大していて、需要のもとで成り立っていると理解した。また、その地域に住む親子が自由に使用できる施設まで開放しており、地域貢献にも力を入れていることがわかり、感動した。

●以前から販売移動車が、購買意欲を満たすために存在しているのは知っていたが、実際に乗ったり買い物をしたりしたのは初めてだった。行く地域や曜日によって在庫量を調節してから出発しているのは、本当に地域を観察し密着しているからこそできる素晴らしい特徴だと感じた。

